

# 関西機械要素技術展でファスナー、 産機、制御システム3事業連携の 当社の強みをアピールしました!

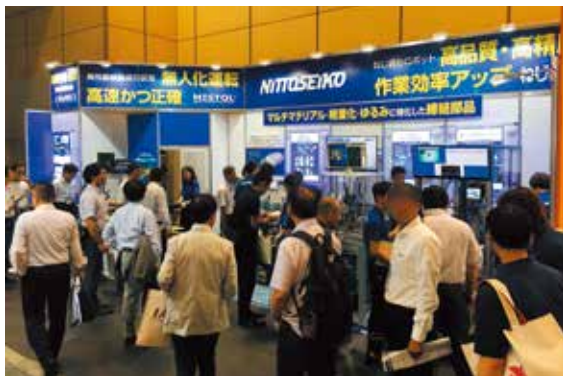


10月2日から4日までインテックス大阪で「関西ものづくりワールド」が開催されました。

これは今年で22回目を迎えた「関西機械要素技術展」と「関西設計・製造ソリューション展」、第4回となる「関西工場設備・備品展」、第2回「関西ものづくりAI/IoT展」、さらに今年から「関西次世代3Dプリンタ展」も加わった、計5つのモノづくりの展示会で構成されるものです。それぞれの展示会がリンクし合う西日本最大の展示ショーで、今年は約1350社が出展し3日間で4万人以上が来場しました。

当社日東精工もこの「関西ものづくりワールド・第22回関西機械要素技術展」に出展しました。当社ブースでは「位置補正カメラ搭載ねじ締めロボット」をはじめ、「IoT対応ねじ締めロボット」、検査選別装置「MISTOL」、振動検査装置「KizMILII」、軽量化素材の特性に合わせた各種セルフタッピンねじ等を出展し、あらゆる産業のニーズに応えるソリューション事例を披露しました。

いずれもすでにこのニュースレターなどで紹介



した当社が誇るべき製品群で、自動車分野をはじめ家電、住宅機器、IT分野などで、軽量化、省力化、環境負荷の低減、コストダウンなどの面で大いに貢献できるものです(詳しくは当社ホームページなどでもご紹介しています)。

## 自動車分野に貢献、 IoT化を促進する製品・技術

右下の写真は異種金属接合技術「AKROSE(アクローズ)」を紹介するコーナーです。「AKROSE」は従来の工法で必要であった接着剤や、温度や音波、レーザーなどの印加を不要とする環境負荷の低減に貢献する画期的技術です。カットサンプルを展示しその技術の中身を詳しく説明しました。

また「位置補正カメラ搭載ねじ締めロボット」や「IoT対応ねじ締めロボット」も実機デモンストレーションを行いました。「IoT対応ねじ締めロボット」は締結品質を左右するファクターを収集し、IoT化を促進!複数のセンサやシステムを活用することで、締



結工程をリアルタイムに監視。「異常」の発生原因を特定するほか、データの蓄積・分析によって、「異常」が発生する条件の洗い出しにも役立ちます。

さらに今回の展示会では、日東精工グループ・伸和精工の精密プレス加工技術も紹介しました。従来、切削でしか対応できなかった精密部品やダイキャストでしか対応できなかった複雑形状のプ

レス化をミクロン単位の精度で実現するものです。

このように製品や技術をパネルや映像、実物などでわかりやすくご紹介し、他メーカーにはない、世界にも類を見ない、当社のファスナー、産機事業、制御システムの3事業連携、さらには関連子会社の特殊専門技術を加えた、モノづくりのトータルソリューションを強くアピールしました。



## 進化し多様化する「受験生応援ゆるみ止めねじ」 今年度もプレゼントキャンペーンを開始します！

日東精工では、ゆるみを防止するという特長をもつ当社の工業用ファスナー「ギザタイト」を、ゆるみにくい＝集中力持続のシンボルとして、特別加工を施して、これまで5年間で2万2000人以上の方にプレゼントしてきました。

学校やクラス単位での応募もあり、「今年はまだですか？」とお問い合わせも既に多数いただいています。ねじの大切さ、奥深さをたくさんの方（とくに若い世代）に知ってもらいたいという願い、またその若い世代、次代、次々代を応援していきたいという思いを「受験生応援ねじ」という形にはじめたキャンペーンは、おかげさまで大きく成長し、NHKをはじめ多くのメディアでも、必ずといっていいほどご紹介いただけるようになりました。

また小・中・高・大学の入学試験だけでなく、救急救命士の試験のために消防学校からのご応募があったり、看護師や運転免許、漢字検定その他の資格試験のためであったり、あるいはスポーツチームが一丸となるためにであったり、障がい者支援のためであったり、年配の方が自分の心を錆びつかせないためであったりと……、当初想定したものとは違ったご応募もたくさんあり、もちろんこういったご応募も、いろいろな方々にねじのことや、当社日東精工のことをご理解いただけるチャンスであるとうれ

しく思っており、感謝し大切にしています。

キャンペーンは、当社の技術や製品が日々進化し続けているように、毎年同じことの繰り返しではなく、年度ごとにバージョンアップさせてきました。

初年度はねじ頭の十字穴を「プラス思考」と表現していましたが、2年目からは小さなねじにもイラストや社名などを刻印できる技術を使って、ねじ頭に「祈成就」と刻印したり、自動車分野などで求められる軽量化を「軽い＝リラックス」と受け止められるよう受験生応援ねじもアルミ素材の「軽量化」にしたりしてと年々進化させているのです。本年度は「AR機能」を搭載、専用アプリをかざすと当社キャラクターのねじとくんが登場しエールを送る仕掛けになっています。

今年度も①12月2日②1月6日③2月3日④3月2日の計4回に分けて、それぞれ先着100名にプレゼントを予定。また学校やクラス単位でのまとめのご希望は別途相談に応じます。

詳細は当社ホームページをご覧ください。



★なお、次号以降、受験生応援ゆるみ止めねじに関連する、こぼれ話、ちょっといい話などを随時ご紹介していく予定です

## 新しい綾部市市民センター 「あやべ・日東精工アリーナ」がオープン

10月14日、新しい綾部市市民センターの竣工式が開催され、当社代表取締役社長材木正己が来賓として出席しました。



綾部市市民センターは、これまで由良川近くにあったものを閉鎖し、JR綾部駅北口そばに新たに建設されたもので、バレーボールやバスケットボールなど多目的利用ができるコートのほか、武道場や会議室、研修室なども備えた、スポーツや文化・コミュニティ活動の核となる施設です。また防災倉庫や炊き出しスペースを設けるなど、災害時の避難所機能も充実させています。

そして綾部市としては初めての施設命名権（ネーミングライツ）制度を導入。これに当社日東精工が優先交渉権を獲得・契約し、今後は「あやべ・日東精工アリーナ」という愛称で市民の方から親しまれることになりました。

今回の竣工式には、山崎善也綾部市長をはじめ、市

綾部市内には「あやべ特産館」や「綾部バラ園」などが入った「グンゼスクエア」がありますが、公共施設に企業名がつくのは、綾部市では「あやべ・日東精工アリーナ」が第一号



議会や商工会議所、自治会連合会などから綾部関係の有力者の方々が出席されました。左上の写真は、テープカットの模様で、向かって右から山崎善也綾部市長、本田太郎衆議院議員、四方源太郎京都府議会議員、そして当社代表取締役社長材木正己となります。

竣工式式典後半では京都産業大学全学応援団チアリーダー部の演技や、綾部中学校吹奏楽部の演奏などもある和やかな雰囲気なかで、多くの方々に、「あやべ・日東精工アリーナ」という新しい愛称と、地域を大事にしていきたい、多くの方々に親しまれたいという当社日東精工の思いをお伝えすることができました。これからは様々な形で

地域貢献を目指してまいります。



地元のメディアからインタビューを受ける当社代表取締役社長材木正己

## 当社台湾現地法人「SHI-HO」が創立50周年を迎えました。

旭和螺絲工業股份有限公司（SHI-HO）は、精密ねじ・特殊冷間圧造部品などを製造販売。また、ねじ締め機などの産機事業部製品をはじめ、日東精工で製造した製品の輸入販売も行っています。

1969年に日本の日東精工と台湾の和泰興業股份有限公司との合併により誕生し、台湾経済やASEAN地域での発展を取り込むことで、順調に成長してきました。今年は創立50周年という節目の年であり、

10月16日に祝賀式典を執り行い、日東精工本社からも代表取締役社長の材木正己をはじめ多くの役員が出席しました。



## 電話対応コンクールで新入社員が審査員特別賞を受賞しました

10月4日、ハートピア京都にて、(公財)日本電信電話ユーザ協会主催の「電話対応コンクール京都府大会」が開催され、当社ファスナー事業部購買課の岩崎諒が審査員特別賞を受賞しました。

評価されたポイントは〈聞きたい内容を的確に聞き出せていた。元気で、声が温かい。全体として自然でスムーズな対応〉でした。当社日東精工ではビジネススキル向上のために様々な研修を行っており、この「電話対応コンクール」にも毎年、新入社員がチャレンジしています。今回、ご評価をいただいたことは本人のみならず同世代の自信や励みにもなりました。当社ではもちろん、今後も人材教育に注力してまいります。







## 運をつかむ人

# 今

年のプロ野球はソフトバンクホークスが圧倒的な強さで日本シリーズを制しましたが、セ・リーグの優勝は読売ジャイアンツでした。

ジャイアンツは5年ぶりの優勝です。じつはこの優勝が、まだまだどちらのほうに転んでいくか誰もがわからない、8月1日付の日本経済新聞で、評論家の権藤博さんが「原配、なぜ当たったのか」というタイトルで書かれていたことは「なるほど、これは仕事・ビジネスにも共通する!」というものでしたので、記事をスクラップしていました。

☆

記事内容は、いくら戦力があっても監督に運がないと勝てない。従来と比べて、さほど戦力に変わりがないのに、ジャイアンツが勝っているのは、まさに原監督が運をもっているからだという内容でした。もちろん生まれつき強運な人はいるでしょう。かつてフジサンケイグループの議長だった

故・鹿内春雄さんは採用試験の最終面接で「君は自分が運をもっていると思うか? 運があるというなら、その根拠を教える」と問うたそうです。

どうせなら運が強い人を仲間にしたという思い、たしかにこれには一理ありますね。けれど、権藤さんは、運はもって生まれたもの、与えられるものだけではないともいいます。「運」という漢字は軍と辶(川を進める)が組み合わさったものです。つまり軍を進め戦い続けることで「運」が拓けるというのです。運は天にまかせるのでなく、自分でつかむもの。原配が当たっているのは勝負に出ているからで、当たりさわりのない采配をしているだけでは運はめぐってこない、権藤さんは書かれています。

ちなみに首位独走の気配があつたとき、普通ならこのまま逃げ切りたいと守りにはいるところ、勝負どころはまだ先だとしスクの高い新戦力や

2軍の選手をどんどん使い、結果4連敗もしています。でも、これも将来を見据えた仕掛けであると評価。助っ人外国人に送りバントをさせ中軸でない選手に打たせてサヨナラ勝ちしたケースを例にとり、リスクを負って仕掛けられているからミラクルが起こる。人がやらないことをやるから運が向いてくるのだと、原稿を締めくくられていました。記事には優勝という文字はひと言も出ていませんが、まさ

に優勝を予見した内容でした。サッカーや、今年はラグビー? などに押され気味ではありますが、それでもやっぱり野球談議に花が咲きますね。ジャイアンツファンであろうとなかろうとも……、当たりさわりのないことで満足しない、人がやらないことをやる、勝負どころをしっかりと見きわめ果敢に攻めるといふ点などは、ぜひ、みならっていきたいものです。一丸となって運をつかみにいききたいものです。

連載23

あやべ ちょっと寄り道

明智光秀とあやべ  
(丹波平定)

明智光秀というと、「本能寺の変」で織田信長を討った逆臣というマイナスのイメージを抱く方が多いかもしれません。しかし日東精工が本社をおく綾部市をはじめ、お隣り福知山市など「丹波」では、善政を治めた知将、茶道や歌にも秀でた教養人として高く評価をされています。明智光秀だけでなく、彼の娘で、最期は非業の死を遂げた細川ガラシャなどを含めたテーマでドラマが生まれてほしいという願い、署名活動が功を奏して、来年2020年の大河ドラマは明智光秀を主人公にした「麒麟がくる」となりました。綾部市や綾部市観光協会では「明智光秀」ゆかりの場所やエピソードを整理し、観光資産とすべく準備を進めています。

